

平成25年度採択プログラム 中間評価調書

博士課程教育リーディングプログラム プログラムの概要 [公表。ただし、項目13については非公表]

機関名	名古屋大学	整理番号	R02
1. 全体責任者  (学長)	※共同実施のプログラムの場合は、全ての構成大学の学長について記入し、取りまとめを行っている大学(連合大学院によるものは基幹大学の学長名に下線を引いてください。 (ふりがな) まつお せいいち 氏名・職名 松尾 清一 (名古屋大学総長)		
2. プログラム責任者	(ふりがな) まつした ゆうしゅう 氏名・職名 松下 裕秀(名古屋大学理事(総務・教育・組織改革・学術情報基盤担当))		
3. プログラム コーディネーター	(ふりがな) たけだ かずや 氏名・職名 武田 一哉(名古屋大学大学院情報科学研究科メディア科学専攻教授)		
4. 類型	R<複合領域型(情報)>		
5.	プログラム名称	実世界データ循環学リーダー人材養成プログラム	
	英語名称	Graduate program for real-world data circulation leaders	
	副題	社会的価値を創造する産業リーダーの養成	
6. 授与する博士学位分野・名称	博士(学術)、博士(工学)、博士(医学)、博士(情報科学)、博士(経済学)に「実世界データ循環学リーダー人材養成プログラム修了」を付記		
7. 主要分科	((① 人間情報学 )) ((② 基礎医学 )) ((③ 情報学フロンティア )) ※ 複合領域型は太枠に主要な分科を記入		
8. 主要細目	((① )) ((② )) ((③ )) ※ オンリーワン型は太枠に主要な細目を記入		
9. 専攻等名 (主たる専攻等がある場合は下線を引いてください。)	情報科学研究科(情報システム学専攻、メディア科学専攻、社会システム情報学専攻) 工学研究科(機械理工学専攻、電子情報システム専攻、計算理工学専攻) 医学系研究科(総合医学専攻、医科学専攻) 経済学研究科(社会経済システム専攻、産業経営システム専攻)		
10. 共同教育課程を設置している場合の共同実施機関名			
11. 連合大学院として参画している場合の共同実施機関名			
12. 連携先機関名(他の大学等と連携した取組の場合の機関名、研究科専攻等名)	情報・システム研究機構 統計数理研究所、東京大学大学院情報理工学系研究科ソーシャルICT研究センター、情報・システム研究機構 国立情報学研究所、国立長寿医療研究センター、豊田中央研究所、デンソー、MHIエアロスペースシステムズ、アステラス製薬、NTT、日本アイ・ビー・エム、ネットイヤーグループ、愛知県産業労働部、マイクロソフトリサーチアジア、キヤノンインフォメーションテクノロジー北京、ハノイ工科大学通信情報技術研究科、イスタンブール工科大学機械工学部、マサチューセッツ工科大学メディア研究所、カーネギーメロン大学工学部・電気/計算機工学科、南デンマーク大学生化学分子生物学専攻、クイーンズランド大学情報技術・電子工学部、ニューヨーク大学・コンピューター科学専攻、東京大学大学院情報理工学系研究科、慶応義塾大学大学院経済学研究科、一橋大学経済研究所		

14. プログラム担当者の構成 計 61 名					
外国人の人数	8 人	[ 13 %]	女性の人数	4 人	[ 7 %]
プログラム実施大学に属する者の割合		[ 54 %]			
プログラム実施大学に属する者		35 人	プログラム実施大学以外に属する者		26 人
そのうち、他大学等を経験したことのある者		33 人	そのうち、大学等以外に属する者		15 人

15. プログラム担当者

氏名	フリガナ	年齢	所属(研究科・専攻等)・職名	現在の専門学位	役割分担 (平成27年度における役割)
(プログラム責任者) 松下裕秀	マツタ ユウシュウ		大学本部・理事(総務・教育・組織改革・学術情報基盤担当)／副総長	高分子化学、高分子・繊維材料 博士(工学)	全体総括・全学組織との調整
(プログラムコーディネーター) 武田 一哉	タケダ カズヤ		情報科学研究科・メディア科学専攻・教授	行動信号処理 博士(工学)	プログラム運営全体の統括、信号処理に関する教育
高田 広章	タカダ ヒロアキ		情報科学研究科・情報システム学専攻・教授	組込みシステム 博士(理学)	産学官連携教育委員長として連携活動の調整、組込みシステムに関する教育
関 浩之	セキ ヒロキ		情報科学研究科・情報システム学専攻・教授	ソフトウェア科学 工学博士	企画評価委員として計画策定、ソフトウェア工学に関する教育
西田 直樹	ニシダ ナキ		情報科学研究科・情報システム専攻・准教授	プログラム理論 博士(工学)	学生育成委員として育成活動を推進、プログラム理論に関する教育
村瀬 洋	ムラセ ヒロシ		情報科学研究科・メディア科学専攻・教授	パターン認識 工学博士	カリキュラム委員として教育課程の策定・実施、パターン認識に関する教育
長尾 確	ナガオ タシ		情報科学研究科・メディア科学専攻・教授	知能情報学 博士(工学)	産学官連携教育委員として連携活動の調整、ロボティクスに関する教育
森 健策	モリ ケンサク		情報科学研究科・メディア科学専攻・教授	画像処理工学 博士(工学)	グローバル教育委員長として国際活動を推進、医用画像処理に関する教育
井手 一郎	イデ イチロウ		情報科学研究科・メディア科学専攻・准教授	マルチメディア情報 博士(工学)	学生育成委員として育成活動を推進、マルチメディア情報・コンテンツ生成に関する教育
間瀬 健二	マセ ケンジ		情報科学研究科・社会システム情報学専攻・教授	インターフェース 博士(工学)	企画評価委員長として計画策定、ヒューマン・コンピュータインタラクションに関する教育
石川 佳治	イシカワ ヨシハル		情報科学研究科・社会システム情報学専攻・教授	データ工学 博士(工学)	学生育成委員会副委員長として育成活動を推進、データ工学に関する教育
外山 勝彦	トヤマ カツヒコ		情報科学研究科・社会システム情報学専攻・教授	法情報処理 工学博士	カリキュラム委員長として教育課程の策定・実施、法情報処理に関する教育
柳浦 睦憲	ヤギ ウラ ムツリ		情報科学研究科・計算機数理学専攻・教授	最適化 博士(工学)	企画評価委員として計画策定、最適化・数値計画法に関する教育
鈴木 達也	スズキ タツヤ		工学研究科・機械理工学専攻・教授	システム制御工学 工学博士	サブコーディネータ：プログラム推進支援室長、知的制御システムに関する教育
山田 陽滋	ヤマダ ヨウジ		工学研究科・機械理工学専攻・教授	ロボティクス 工学博士	産学官連携教育委員として連携活動の調整、機械安全に関する教育
稲垣 伸吉	イナガキ シンキチ		工学研究科・機械理工学専攻・准教授	分散システム 博士(工学)	サマースクールの企画・運営、分散システムに関する教育
佐藤 理史	サトウ リシ		工学研究科・電子情報システム専攻・教授	自然言語処理 工学博士	企画評価委員として計画策定、自然言語処理・人工知能に関する教育
藤井 俊彰	フジイ トシアキ		工学研究科・電子情報システム専攻・教授	情報通信工学 博士(工学)	学生育成委員長として育成活動を推進、映像データ工学に関する教育
道木 慎二	ミチキ シンジ		工学研究科・電子情報システム専攻・教授	制御工学 博士(工学)	グローバル教育委員として国際活動を推進、知的制御工学に関する教育
河口 信夫	カワガチ ノブオ		工学研究科・計算理工学専攻・教授	情報システム学 博士(工学)	産学官連携教育委員として連携活動の調整、ユビキタスシステムに関する教育
古橋 武	コハシ タケ		工学研究科・計算理工学専攻・教授	感性工学 工学博士	カリキュラム委員として教育課程の策定・実施、ソフトコンピューティング・感性工学に関する教育
白鳥 義宗	シラトリ ヨシムネ		医学部附属病院・病院長補佐 メディカルITセンター長・教授 予防早期医療創成センター・教授	医療情報学 博士(医学)	カリキュラム委員として教育課程の策定・実施、医療情報ならびにプロジェクトマネジメントに関する教育
大野 欽司	オノ キンジ		医学系研究科・総合医学専攻・教授 (医科学専攻兼任)	神経遺伝情報学 医学博士	サブコーディネータ：メンター統括、OMICS・バイオインフォマティクスに関する教育
尾崎 紀夫	オザキ ノブオ		医学系研究科・総合医学専攻・教授 (医科学専攻兼任)	精神医学 博士(医学)	学生育成委員として育成活動を推進、精神疾患のゲノム解析に関する教育
高橋 隆	タカハシ タカ		医学系研究科・総合医学専攻・教授 (医科学専攻兼任)	分子腫瘍学 博士(医学)	企画評価委員として計画策定、トランスクリプトームに関する教育
榎本 篤	エノモト アツシ		医学系研究科・総合医学専攻・准教授 (医科学専攻兼任)	実験病理学 博士(医学)	企画評価委員として計画策定、癌のプロテオームに関する教育

## 15. プログラム担当者一覧(続き)

氏名	フリガナ	年齢	所属(研究科・専攻等)・職名	現在の専門 学位	役割分担 (平成27年度における役割)
安達 貴教	アダチ タカリ		経済学研究科・社会経済システム専攻・准教授	応用ミクロ経済学 Ph. D.	カリキュラム委員として教育課程の策定・実施, 産業組織論に関する教育
樋口 知之	ヒガチ トモキ		情報・システム研究機構・統計数理研究所・所長	ベイズアンサンブル 理学博士	評価委員として数理科学の視点からプログラム運営にアドバイスを行う
松井 知子	マツイ トモコ		情報・システム研究機構・統計数理研究所・教授/主幹	統計的機械学習 博士(工学)	統計的機械学習・音声情報処理に関する教育
橋田 浩一	ハシダ コウイチ		東京大学大学院情報理工学系研究科・ソーシャルICT研究センター・教授	人工知能 理学博士	自然言語処理・人工知能に関する教育
加藤 真平	カノウ シンペイ		東京大学・大学院情報理工学系研究科・コンピュータ科学専攻・准教授	計算機科学 博士(工学)	グローバル教育委員として国際活動を推進, サイバーフィジカルシステムに関する教育
臼井 恵美子	ウスイ エミコ		一橋大学・経済研究所・准教授	労働経済 Ph. D.	グローバル教育委員として国際活動を推進, 社会保障の調査と制度設計に関する教育
星野 崇宏	ホシノ タカヒロ		慶應義塾大学 経済学部・大学院経済学研究科・教授	マーケティングサイ エンス 博士(学術) 博士(経済学)	企画評価委員として計画策定, 産学官連携教育委員として連携活動の調整, 因果推論に関する教育
安達 淳	アダチ ジュン		情報・システム研究機構・国立情報学研究所・副所長	データ工学 工学博士	評価委員としてデータサイエンスの視点からプログラム運営にアドバイスを行う
大島 伸一	オノマ シンイチ		国立長寿医療研究センター・名誉総長	高齢者医学・ 医療 医学博士	評価委員として高齢化社会対応の視点からプログラム運営にアドバイスを行う
脇田 敏裕	ワキタ トシヒロ		(株)豊田中央研究所・取締役	自動車情報 博士(情報科 学)	評価委員として自動車技術における研究リーダー人材像の視点からプログラム運営にアドバイスを行う
手操 能彦	テグリ ノリヒコ		(株)デンソー・技術開発センター・技術人材戦略室・担当部長	機械工学 修士(工学)	インターン学生の受け入れ, 理系人づくりの観点からアドバイス
清水 将一	シミス マサイチ		MHIエアロスペースシステムズ(株)・技術担当取締役	コンピュータサイ エンス 修士(工学)	インターン学生の受け入れ, ソフトウェア人材教育の観点からアドバイス
稲垣 治	イナガキ オサム		アステラス製薬(株)・開発本部・上席専任理事	レジユトリーサイ エンス 博士(薬学)	医療情報の薬学への応用に関する教育
前田 英作	マエダ エイサク		NTT・コミュニケーション科学基礎研究所・所長	パターン認識 工学博士	評価委員としてICT産業におけるリーダー人材像の視点からプログラム運営にアドバイスを行う
武田 浩一	タケダ コウイチ		日本アイ・ビー・エム(株)・東京基礎研究所・技術理事	知能情報学 博士(情報学)	インターン学生の受け入れ, 人工知能に関する教育
渡辺 日出雄	ワタナベ ヒデオ		日本アイ・ビー・エム(株)・東京基礎研究所・レジリエンス工学部長	ビッグデータ 分析 博士(工学)	インターン学生の受け入れ, スマート・シティ/ビッグ・データ分析に関する教育
石黒 不二代	イシグロ フジヨ		ネットイヤーグループ(株)・代表取締役社長兼CEO	経営 MBA	インターン学生の受け入れ, キャリア支援とビジネスマーケティング戦略に関する教育
大野 博	オノ ヒロシ		愛知県・産業労働部・技監	繊維高分子学 士(工学)	地域企業と本プログラムの架橋, 地方行政の視点からアドバイス
福本 雅朗	フクモト マサアキ		マイクロソフトリサーチアジア・主任研究員	ヒューマンイン タフェース デバイス 博士(工学)	インターン学生の受け入れ, ヒューマンインタフェースデバイスに関する教育
関根 聡	セキネ サトシ		ニューヨーク大学・コンピューター科学専攻・准教授	自然言語処理 Ph. D.	インターン学生の受け入れ, 自然言語処理に関する教育
井田 光一	イダ コウイチ		キャノンインフォメーションテクノロジー(北京)有限公司・社長	ソフト研究開発 博士(工学)	インターン学生の受け入れ
THANG, Huynh Quyet	タン フィン ケット		ハノイ工科大学・通信情報技術研究科・研究科長	ソフトウェア工学 Ph. D.	製造拠点都市における海外実習の支援
MUGAN, Ata	ムガン アタ		イスタンブール工科大学・機械工学部・学部長	計算力学 Ph. D.	製造拠点都市における海外実習の支援
ROY, Deb	ロイ デブ		マサチューセッツ工科大学・メディア研究所・准教授/ツイッター・チーフメディアサイエンティスト	メディア情報 Ph. D.	海外滞在研究の受け入れ, 国際トップ研究者として学生にアドバイス
RAJKUMAR, Ragnathan	ラジュカマー ラグナサン		カーネギーメロン大学・工学部・電気/計算機工学科・教授	サイバーフィジカルシステム Ph. D.	海外滞在研究の受け入れ, サイバーフィジカルシステムに関する教育, 国際トップ研究者として学生にアドバイス
ANDRESEN, Brage	アンダーソン ブラゲ		南デンマーク大学・生化学分子生物学専攻・教授	分子生物学 Ph. D.	海外滞在研究の受け入れ, バイオインフォマティクスに関する教育, 国際トップ研究者として学生にアドバイス
SHEN, Heng Tao	シェン ヘン タオ		クイーンズランド大学・情報技術・電子工学部・教授	データベース Ph. D.	海外滞在研究の受け入れ, マルチメディア・データベースに関する教育, 国際トップ研究者として学生にアドバイス
中岩 浩巳	ナカイ ヒロミ		実世界データ循環学リーダー人材養成プログラム・特任教授	自然言語処理 博士(工学)	産学官連携教育委員として連携活動の調整, 自然言語処理に関する教育

## 15. プログラム担当者一覧(続き)

氏名	フリガナ	年齢	所属(研究科・専攻等)・職名	現在の専門 学位	役割分担 (平成27年度における役割)
平山 高嗣	ヒラヤマ タツグ		実世界データ循環学リーダー人材養成プログラム・特任准教授	行動認識・行動理解 博士(工学)	カリキュラム委員として教育課程の策定・実施, 行動認識・行動理解に関する教育
鈴木 一克	スズキ カズヨシ		実世界データ循環学リーダー人材養成プログラム・特任助教	画像情報処理 博士(数理学) 博士(工学)	カリキュラム委員として教育課程の策定・実施, 画像情報処理に関する教育
FAJARDO Jovilin Therese Baco	ファハルト ショビ リン テリス バコ		実世界データ循環学リーダー人材養成プログラム・特任助教	モバイルコンピューティング 博士(工学)	グローバル教育委員として国際活動を推進, モバイルコンピューティングに関する教育
Mehrdad Panahpour Tehrani	メルダド パナ フル テハラニ		実世界データ循環学リーダー人材養成プログラム・特任准教授	電子情報・博士(工学)	グローバル教育・カリキュラム委員として国際活動を推進, 映像工学に関する教育
島村 徹平	シムラ テツヘイ		実世界データ循環学リーダー人材養成プログラム・特任准教授	バイオインフォマティクス・システム生物学 博士(情報科学)	カリキュラム委員として教育課程の策定・実施, バイオインフォマティクス, システム生物学に関する教育
松井 佑介	マツイ ユウスケ		実世界データ循環学リーダー人材養成プログラム・特任助教	統計科学 博士(情報科学)	学生育成委員として育成活動を推進, 統計科学・データ解析に関する教育
薄井 智貴	ウスイ トモキ		実世界データ循環学リーダー人材養成プログラム・特任准教授	ITS/地理空間情報 博士(工学)	カリキュラム委員として教育課程の策定・実施, データセンシングに関する教育

## 16. プログラムの応募学生数、合格者数及び受講学生数

本学位プログラムの過去3年間のリーディングプログラム応募学生数等について記入してください。

(各年度3月31日現在(ただし平成28年度は提出日現在))

		平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度 *(今後の募集予定: 有)無)
プログラム募集定員数(実数)		-	20人	20人	20人
① 応募学生数		-	22人	25人	27人
	うち留学生数	-	11人	12人	16人
	うち自大学出身者数	- (人)	8人 (0人)	11人 (4人)	8人 (1人)
	うち他大学出身者数	- (人)	14人 (11人)	14人 (8人)	19人 (15人)
	うち社会人学生数	- (人)	6人 (4人)	2人 (2人)	5人 (4人)
	うち女性数	- (人)	8人 (3人)	2人 (1人)	11人 (10人)
② 合格者数		-	15人	14人	15人
	うち留学生数	-	6人	6人	7人
	うち自大学出身者数	- (人)	7人 (0人)	7人 (2人)	8人 (1人)
	うち他大学出身者数	- (人)	8人 (6人)	7人 (4人)	7人 (6人)
	うち社会人学生数	- (人)	3人 (2人)	1人 (1人)	4人 (3人)
	うち女性数	- (人)	7人 (3人)	2人 (1人)	6人 (6人)
③ ②のうち受講学生数		-	15人	14人	15人
	うち留学生数	-	6人	6人	7人
	うち自大学出身者数	- (人)	7人 (0人)	7人 (2人)	8人 (1人)
	うち他大学出身者数	- (人)	8人 (6人)	7人 (4人)	7人 (6人)
	うち社会人学生数	- (人)	3人 (2人)	1人 (1人)	4人 (3人)
	うち女性数	- (人)	7人 (3人)	2人 (1人)	6人 (6人)
プログラム合格倍率(①応募学生数/②合格者数)(小数点第三位を四捨五入)		-	1.47倍	1.79倍	1.80倍
充足率(合格者数/募集定員)		-	75.00%	70.00%	75.00%

※留学生については、「うち留学生数」にカウントするとともに、うち自大学出身者数、うち他大学出身者数、うち社会人学生数、うち女性数の()に内数を記入してください。

※平成28年度\*(今後の募集予定:有・無)については、平成28年度内に受講を開始する学生を募集予定の場合(秋入学等)は「有」に、募集予定がない場合は「無」に印を付けてください。また、有の場合は、プログラム募集定員数(実数)欄には募集予定人数を含めず、下記備考欄へ募集時期とともに記載してください。

※編入学生がいる場合は、年度ごとの内訳を備考欄に記入してください。

17. 学位プログラムの受講学生数・修了(予定)者数

各年度における本学位プログラムの受講学生数を記入してください。

①区分制及び一貫制博士課程

(各年度3月31日現在(ただし平成28年度は提出日現在))

学位プログラムの受講学生数等	平成25年度						平成26年度						平成27年度						平成28年度						平成29年度	平成30年度	
	M1(D1)	M2(D2)	D1(D3)	D2(D4)	D3(D5)	計	M1(D1)	M2(D2)	D1(D3)	D2(D4)	D3(D5)	計	M1(D1)	M2(D2)	D1(D3)	D2(D4)	D3(D5)	計	M1(D1)	M2(D2)	D1(D3)	D2(D4)	D3(D5)	計			
平成25年度選抜	うち留学生数	-	-	-	-	-	0	-	-	-	-	-	0	-	-	-	-	-	0	-	-	-	-	-	0		
	うち自大学出身者数	-	-	-	-	-	0	-	-	-	-	-	0	-	-	-	-	-	0	-	-	-	-	-	0		
	うち他大学出身者数	-	-	-	-	-	0	-	-	-	-	-	0	-	-	-	-	-	0	-	-	-	-	-	0		
	うち社会人学生数	-	-	-	-	-	0	-	-	-	-	-	0	-	-	-	-	-	0	-	-	-	-	-	0		
	うち女性数	-	-	-	-	-	0	-	-	-	-	-	0	-	-	-	-	-	0	-	-	-	-	-	0		
平成26年度選抜	うち留学生数	/	/	/	/	/	/	15	-	-	-	-	15	-	15	-	-	-	15	-	1	11	-	-	12		
	うち自大学出身者数	/	/	/	/	/	/	6	-	-	-	-	6	-	6	-	-	-	6	-	0	5	-	-	5		
	うち他大学出身者数	/	/	/	/	/	/	7	-	-	-	-	7	-	7	-	-	-	7	-	1	5	-	-	6		
	うち社会人学生数	/	/	/	/	/	/	8	-	-	-	-	8	-	8	-	-	-	8	-	0	6	-	-	6		
	うち女性数	/	/	/	/	/	/	3	-	-	-	-	3	-	3	-	-	-	3	-	0	3	-	-	3		
平成27年度選抜	うち留学生数	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	12	2	-	-	-	14	-	13	1	-	-	14		
	うち自大学出身者数	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	5	1	-	-	-	6	-	6	0	-	-	6		
	うち他大学出身者数	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	6	1	-	-	-	7	-	6	1	-	-	7		
	うち社会人学生数	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	6	1	-	-	-	7	-	7	0	-	-	7		
	うち女性数	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	1	0	-	-	-	1	-	1	0	-	-	1		
平成28年度選抜	うち留学生数	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	15	-	4	-	-	19		
	うち自大学出身者数	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	7	-	3	-	-	10		
	うち他大学出身者数	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	8	-	1	-	-	9		
	うち社会人学生数	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	7	-	3	-	-	10		
	うち女性数	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	4	-	4	-	-	8		
計	うち留学生数	0	0	0	0	0	0	15	0	0	0	0	15	12	17	0	0	0	29	15	14	16	0	0	45	21	
	うち自大学出身者数	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	22	
	うち他大学出身者数	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	23	
	うち社会人学生数	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	12	
	うち女性数	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	14	
修了者数(予定者を含む)	0						0						0						0	0							
就職者数	0						0						0														
プログラム対象学生以外で、プログラムのカリキュラムの一部を受講している学生数	0						0						0														

※「16. プログラムの応募学生数、合格者数及び受講学生数」と整合性を取ってください。

※「修了者数」の平成28、29、30年度については、修了予定者数を記入してください。

※「就職者数」にはプログラムを修了後に就職した者(起業した者も含む)のみをカウントしてください。

※辞退者(Q.E.によるものも含む)がいる場合は、年度毎の内訳およびその理由を備考欄に記入してください。

17. 学位プログラムの受講学生数・修了(予定)者数  
各年度における本学位プログラムの受講学生数を記入してください。

②医・歯・薬・獣医学の4年制博士課程

(各年度3月31日現在(ただし平成28年度は提出日現在))

学位プログラムの受講学生数等	平成25年度					平成26年度					平成27年度					平成28年度					平成29年度	平成30年度	
	D1	D2	D3	D4	計	D1	D2	D3	D4	計	D1	D2	D3	D4	計	D1	D2	D3	D4	計			
平成25年度選抜		-	-	-	-	0	-	-	-	-	0	-	-	-	-	0	-	-	-	-	0		
	うち留学生数	-	-	-	-	0	-	-	-	-	0	-	-	-	-	0	-	-	-	-	0		
	うち自大学出身者数	-	-	-	-	0	-	-	-	-	0	-	-	-	-	0	-	-	-	-	0		
	うち他大学出身者数	-	-	-	-	0	-	-	-	-	0	-	-	-	-	0	-	-	-	-	0		
	うち社会人学生数	-	-	-	-	0	-	-	-	-	0	-	-	-	-	0	-	-	-	-	0		
うち女性数	-	-	-	-	0	-	-	-	-	0	-	-	-	-	0	-	-	-	-	0			
平成26年度選抜						-	-	-	-	0	-	-	-	-	0	-	-	-	-	0			
	うち留学生数					-	-	-	-	0	-	-	-	-	0	-	-	-	-	0			
	うち自大学出身者数					-	-	-	-	0	-	-	-	-	0	-	-	-	-	0			
	うち他大学出身者数					-	-	-	-	0	-	-	-	-	0	-	-	-	-	0			
	うち社会人学生数					-	-	-	-	0	-	-	-	-	0	-	-	-	-	0			
うち女性数					-	-	-	-	0	-	-	-	-	0	-	-	-	-	0				
平成27年度選抜											-	-	-	-	0	-	-	-	-	0			
	うち留学生数										-	-	-	-	0	-	-	-	-	0			
	うち自大学出身者数										-	-	-	-	0	-	-	-	-	0			
	うち他大学出身者数										-	-	-	-	0	-	-	-	-	0			
	うち社会人学生数										-	-	-	-	0	-	-	-	-	0			
うち女性数										-	-	-	-	0	-	-	-	-	0				
平成28年度選抜																-	-	-	-	0			
	うち留学生数															-	-	-	-	0			
	うち自大学出身者数															-	-	-	-	0			
	うち他大学出身者数															-	-	-	-	0			
	うち社会人学生数															-	-	-	-	0			
うち女性数															-	-	-	-	0				
計		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
	うち留学生数																						
	うち自大学出身者数																						
	うち他大学出身者数																						
	うち社会人学生数																						
うち女性数																							
修了者数(予定者を含む)	0					0					0					0	0						
就職者数	0					0					0												
プログラム対象学生以外で、プログラムのカリキュラムの一部を受講している学生数	0					0					0					0							

※「16. プログラムの応募学生数、合格者数及び受講学生数」と整合性を取ってください。

※「修了者数」の平成28、29、30年度については、修了予定者数を記入してください。

※「就職者数」にはプログラムを修了後に就職した者(起業した者も含む)のみをカウントしてください。

※辞退者(Q.Eによるものも含む)がいる場合は、年度毎の内訳およびその理由を備考欄に記入してください。

## リーダーを養成するプログラムの概要、特色、優位性

(広く産学官にわたりグローバルに活躍するリーダー養成の観点から、本プログラムの概要、特色、優位性を記入してください。)

### 1. プログラムの概要

近年、我が国の産業競争力が低下している。その主要な原因は、我が国の強みである高い技術の蓄積を、新しい社会的価値の創造に結びつけられなかったことにある。製品やサービスがもたらす社会的価値の本質は、それを手にした人々が、「便利、楽しさ、健康、豊かさ」といった、根元的な価値を広く共有できることにある。さらに、その価値は、作り手が受け手に一方的に伝えるものではなく、「受け手の望み」と「作り手の思い」のやりとりの中で形づくられる。この「受け手の望み」は具体的な形を持たないことも多く、製品やサービスに触れる中で、変化したり、新たな望みが生まれてきたりもする。この捉えどころの無い「受け手の望み」を、絶え間なくくみ取って、新しい製品やサービスの提供に結びつける循環こそ、社会的価値を創造するプロセスそのものである。

我々は、以下の2つの理由から、この循環を組織的に作り出すためには、新しい学問領域が必要と考える。第1に、社会的価値を創造するためには、「便利、楽しさ、健康、豊かさ」といった、より根元的な価値を担う、工学（便利）、情報科学（楽しさ）、医学（健康）、経済学（豊かさ）の方法論が必要であること。第2に、循環を生み出すためには、受け手の望みを、実世界の様々な現象の観測などを通じてデジタルデータとして「取得」し、これを情報技術を利用して「解析」し、解析の結果を新たな製品やサービスとして「実装」して社会に働きかけるという、3つの機能（取得、解析、実装）を総合する必要があること。言い換えれば、工学、情報科学、医学、経済学の分野に跨り、実世界データの「取得、解析、実装」を扱う学問領域が必要である。

我々はこの学問領域を「**実世界データ循環学**」と呼び、この学問領域において、新しい社会的価値を創造するリーダー人材を養成する。養成する人材は、工学、情報科学、医学、経済学に跨る幅広い技術群を俯瞰し、それらの組み合わせに循環を見出し、それらを繋ぐことで循環を生み出すことができる人材、言うなれば「**循環に気付き（きづき）、循環を築く（きずく）**」人材である。

本プログラムでは、4研究科に跨る、機械・人間・社会を対象にした、データ取得の学理を横断的に学ぶとともに、それらの解析に共通する数理手法を体系的に学ぶ。さらに多くのケーススタディを行うことで、様々な学問領域で研究されている「実世界データ循環」を俯瞰する力を養う。豊富な海外経験や産業現場の経験を通して、この俯瞰力を確固たるものにしつつ、実世界データ循環による社会的価値創造に寄与しうる博士論文研究を行うことで、「実世界データ循環」を構築する力を得る。このようなプログラムを高い意欲と学力を持った学生に対して実施することで、産業界における将来の研究リーダー候補を養成する。

### 2. プログラムの特色

自動車・航空産業等、広い裾野を持つ地域製造業とのつながりを活かし、「新しい社会的価値の創造」というビジョンを広く産業界と共有し、**研究重視から価値重視へ**の大学院教育改革を目指す。そのために、産業界から多くの分担者を迎え、学位プログラムに社会的価値の視点を導入する。講義と研究を補完し、俯瞰力を確固たるものにする教授方法として、**場を与え、経験を評価する**「実世界ワーク」を行う。これは、学生を様々な「場」に派遣して日常的な活動報告を求め、それに対して学内外の関係者が SNS を活用して議論・コメントを行う（e アゴラ）ことで、経験的な知識や俯瞰力を身につけさせるロールプレイ型教授方法である。この「場」として、アジアの製造拠点都市と最先端海外研究室を設定することで、**国際的産業分業を経験**し、技術的視点だけでなく、国際社会の視点からも循環を俯瞰できる人材を養成する。SNS とポートフォリオシステムを連携・活用し、学修履歴を担当者全体で共有し、開かれた学位審査により質を保証するとともに、その一部を社会に公開することで、**学位評価の視点をピアレビューからソーシャルレビューにシフト**させる。

### 3. プログラムの優位性

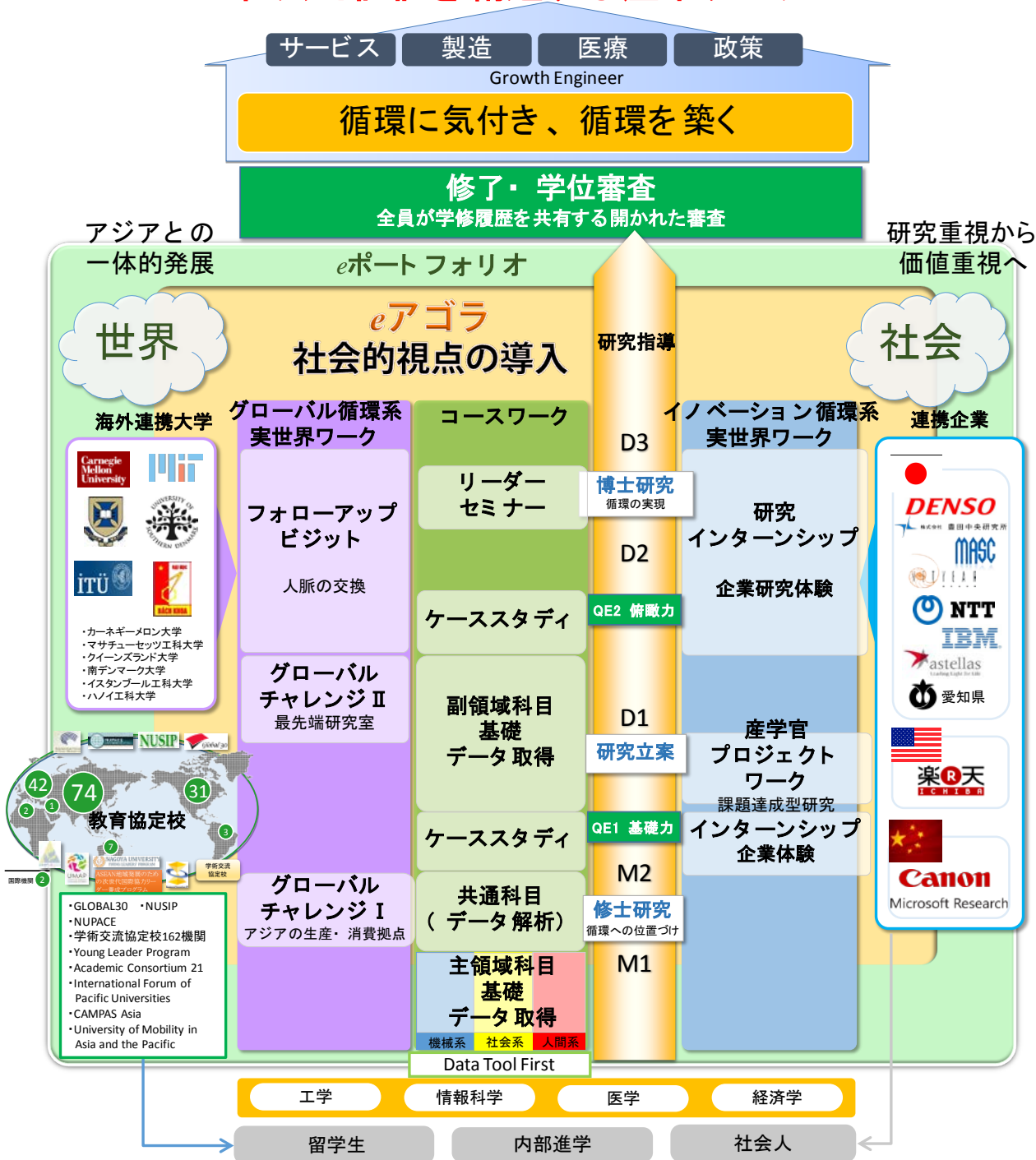
中部地区は、製造業を中心とした世界に類を見ない産業集積地であり、名古屋大学と産業界とは人材供給や連携活動を通じて密接な関係を歴史的に培ってきた。次世代の**製造産業に対する危機感**と、社会的価値を創造する人材の必要性に対する、**養成側と採用側の一致した強い思い**こそが、本プログラムの最大の優位性である。グリーンモビリティ連携研究センター、予防早期医療創成センターなど、具体的な出口に向かって**学問領域を越えて協働する教員ネットワーク**を、提案する学問領域にすでに有することも、優位な点である。関係専攻は、グローバル COE (2 件)、組織的若手海外派遣 (3 件)、頭脳循環活性化事業、世界展開力強化事業 (2 件) を通じて大学院の国際化を推進しており、自動車技術サマーコース NUSIP のように国際的に高い人気を誇るコンテンツも、グローバルな人材養成に活用できる。



学位プログラムの概念図

(優秀な学生を俯瞰力と独創力を備え広く産学官にわたりグローバルに活躍するリーダーとして養成する観点から、コースワークや研究室ローテーションなどから研究指導、学位授与に至るプロセスや、産学官等の連携による実践性、国際性ある研究訓練やキャリアパス支援、国内外の優秀な学生を獲得し切磋琢磨させる仕組み、質保証システムなどについて、学位プログラムの全体像と特徴が分かるようにイメージ図を書いてください。なお、共同実施機関及び連携先機関があるものについては、それらも含めて記入してください。)

社会的価値を創造する産業リーダー



実世界データ循環学リーダー人材養成カリキュラム